

岩手県総合計画審議会
令和2年度第4回県民の幸福感に関する分析部会

(開催日時) 令和2年7月29日(水) 9:30~11:00

(開催場所) 岩手県水産会館 5階大会議室

- 1 開 会
- 2 議 題
 - (1) 令和2年度 年次レポート(素案)について
 - (2) その他
- 3 閉 会

出席委員等

吉野英岐部会長、谷藤邦基委員、Tee Kian Heng(ティー・キャン・ヘーン)委員、
山田佳奈委員、和川央岩手県立大学特任准教授

欠席委員等

若菜千穂副部会長、竹村祥子委員、広井良典オブザーバー

1 開 会

○北島政策企画課評価課長 御案内の時間になりましたので、ただいまから令和2年度第4回県民の幸福感に関する分析部会を開催いたします。

私は、事務局を担当しております政策企画課の北島と申します。どうぞよろしく願いいたします。

本日は若菜委員、竹村委員、広井アドバイザーが欠席しておりますが、運営要領の規定により、委員の半数以上に御出席いただいておりますので、会議が成立していることを御報告いたします。

それでは、開会に当たりまして、政策企画課総括課長の照井から御挨拶申し上げます。

○照井政策企画課総括課長 おはようございます。本日はお忙しい中御出席いただきまして、大変ありがとうございます。

この県民の幸福感に関する分析部会でございますが、これまで3回の部会を開催させていただいております。多くの御意見をいただいたところでございます。全国に先駆けての取組ということで、いろいろ試行錯誤の中御検討いただきまして、こうした中でこういった素案を取りまとめることができまして、皆様の御尽力に改めて感謝申し上げるところでございます。本当にありがとうございます。

県では、来月から政策形成支援評価を実施しますが、これは、これまでの指標の達成状況に加えまして、県民意識調査の結果、あるいは社会経済情勢の変化等を踏まえた総合的な評価を行い、政策の立案を進めていくというものでございます。

今年度におきましては、いわて県民計画のいわて幸福関連指標の実績値が初めて出るということに加えまして、この幸福に着目した県民の実感をいかに評価し、その次の施策に

つなげていくかというのが非常に重要なポイントと考えてございまして、本日御審議いただいております当部会の年次レポートは非常に大きな役割を担うと考えてございます。限られた時間でございますが、皆様の忌憚のない御意見を賜りまして本日の部会が今後の政策に生かされるように進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

○北島政策企画課評価課長 議事に入ります前に資料の確認をさせていただきます。本日の資料は、資料1から資料3となっております。御確認をお願いいたします。

2 議 題

(1) 令和2年度 年次レポート(素案)について

○北島政策企画課評価課長 続いて、議事に入りたいと思ひます。

運営要領の規定に基づきまして、部会の議長は部会長が務めることとされております。以後の進行につきましては、吉野部会長よろしくお願ひいたします。

○吉野英岐部会長 おはようございます。ほぼ月1のペースで進めてまいりましたが、あと今日ともう一回を残すということで、大分形ができておりますので、細かい字句、あるいは表現、中身について修正をしたバージョンが今日お手元に届いていると思ひます。これを基に素案について審議を進めていきまして、成案に少しでも近づけるように皆様のお知恵を頂きたいと思ひます。

それでは、資料を使って御説明があると思ひますので、事務局より御説明をお願いいたします。

○池田政策企画課主任主査 事務局の池田と申します。私の方から説明をさせていただきたいと思ひます。座って説明させていただきます。

それでは、資料1、県民の幸福感に関する分析部会、年次レポート(素案)の方を御覧ください。おめぐりいただきまして、前回との変更点なのですが、前回ローマ数字が各分野のローマ数字と章立てのローマ数字の混同があったりする部分もありましたので、分かりやすいように今回章立てを変更させていただいてございます。

おめぐりいただきまして、第1章 本報告書の内容ということで、こちらにつきましては、政策推進プランの進捗管理を行うためにいわて幸福関連指標を始めとする客観的指標の達成状況に加えまして、県民の幸福感を政策立案に反映させていくことが必要だということで、昨年度県民の幸福感に関する分析部会という部会を総合計画審議会のほうに設置して、その結果を取りまとめたものということで整理をしております。

第2章ということで、今年度の分析事項ということになります。こちらの方に記載してございます県民意識調査、毎年やっております5,000人調査なのですが、それに加えまして分野別実感の変動要因を推測するために昨年検討いただきました補足調査を実施いたしましたので、その内容と併せて今回分析を実施しているということを踏まえて整理をしております。

おめぐりいただきまして、今年度の部会でお話いただいた分析ということで、1つが

令和2年県民意識調査結果の属性の分析をしていただいたほか、昨年と今年の県民意識調査の時系列分析を行っていただき、あとは調査の始まりました平成28年から今年の調査の時系列分析の中で、属性の平均点が低い値で推移している、3点未満で推移しているものについても分析をいただいたということでございます。

第3章といたしましては、調査結果、こちらの方につきましては県民意識調査と補足調査の結果をそれぞれ整理させていただいております。県民意識調査の結果ということにつきましては、5,000人の無作為抽出による調査を行って、令和2年1月から2月に行った結果というものを今回分析いただいているということになります。

おめくりいただきまして、4ページ。こちら調査結果の概要ということで、「幸福だと感じる」、又は「やや幸福だと感じる」と回答した方につきましては、令和2年調査では56.2%ということになってございます。昨年調査52.3%に比べまして、上昇をしているということにはなりません。

主観的幸福感の「幸福だと感じる」から「幸福だと感じない」というまでの5段階につきまして、選択肢に応じて「幸福だと感じる」を5点、「幸福だと感じない」を1点と配点したところ、県全体の平均値、こちらの方につきましては5点満点中3.48点ということになっておりまして、去年よりも0.05点上昇はしてございます。

続きまして、分野別実感ということで県民意識調査につきましては各分野についてお尋ねをしてございます。その結果が図3の回答内容になるのですが、自然に恵まれていると感じますか」という質問で、自然のゆたかさ、あと家族関係、地域の安全というのが割合として高い順になっているということになります。

6ページ、こちらの方につきましては、幸福を判断する際に重視する事項ということになってございます。こちらの項目につきましては、昨年同様健康状況、家族関係というものが高い、特に重視されているような結果となっております。こういった状況を踏まえまして行った補足調査の結果を御報告させていただいております。

補足調査というものにつきましては、県民意識調査で把握しました分野別実感の変動要因を把握するというを目的といたしまして、県内600人、各広域圏に150名ずつの方を調査していくということになりますので、平成31年の県民意識調査の御回答いただいた方に引き続き今回御回答をいただいたということになってございます。

おめくりいただきまして、調査結果ということになります。こちらの補足調査の調査結果というところになりますと、今回分野別実感に回答した理由の方の調査ということになってございますので、表3におきましては「感じない・あまり感じない」という部分と、「どちらともいえない」、「やや感じる・感じる」というような回答をいただいた方の理由について整理しまして、それぞれ上位3つのところを整理した表となっております。こちらにおきましては、県民意識調査では心身の健康ということでやっている部分が(1)と(2)、「からだの健康」、「こころの健康」にこの理由調査に対して区分して調査を行っているということになっております。

それを踏まえまして、平成31年調査と今年の令和2年調査の県民意識調査で実感に変動があった人の回答理由を整理したのがこちらとなります。実感が低下した方、横ばいの方、上昇した方、この3つの区分で整理をしてございます。

先ほどちょっとお話をさせていただいておりますけれども、心身の健康という部分につ

いては、昨年は心身の健康1項目で調査をしてございまして、今回の補足調査ではからだところの健康にそれぞれ分けて調査をしてございますので、ちょっとこの部分については今年低下した理由、横ばいの理由、上昇したという区分での分析ができないということで余暇以下の分析分野について理由を整理させていただいたということになってございます。

おめくりいただきまして、10 ページ、こちらの方が分析結果ということになりまして、まず初めに、分析に当たりまして分析の目的、対象、方法というものを整理させていただいているのはこちらのページとなります。前回、ちょっと記載内容の方がもう少し簡潔かつ明瞭にした方がいいということもありますので、今回内容について整理をさせていただいております。

分析目的といたしましては、主観的幸福感、分野別実感の概況の把握、あとはこれら分野別実感の変動要因の推測、あとは低い水準で推移している属性の要因の推測というこの大きく3つを整理していくということにしております。

分析方法といたしましては、県民意識調査の内容について今時系列変化の有無をt検定で検証を行っています。あとは、属性差の有無については一元配置分散分析で整理をしていく。分野別実感によるこちらの方、特には今回重要となってくるのですけれども、その部分については分野別実感の変動に影響を与えた属性の回答理由から変動要因を検証していくということで、県民意識調査を基に分野別実感の変動に影響を与えたと判断される属性を把握していく、さらに補足調査で当該属性の分野別実感の回答理由を把握するというような作業を行いました。②のほうでは、補足調査で得られた分野別実感の回答理由で上昇した人、横ばいの人、低下した人の3区分を整理しているのですけれども、こちらの方の内容も把握しながら分野別実感の変動要因の推測を行ったということで記載しています。

もう一つが分野別実感が低水準に推移している属性の要因ということで、こちらの方につきましては平成28年から一貫して3点未満で推移しているものという形で整理をさせていただいた上で、補足調査で得られた分野別実感が「感じない」、「やや感じない」の回答理由を把握することで、低水準の要因を推測していくという手法を取ってございます。

おめくりいただきまして、12 ページ、13 ページ、こちらの方が今回の県民意識調査のおおむねの概要ということになります。各主観的幸福感から分野別実感を全てお示しさせていただいております、こちらの方が平成31年調査、今年の調査の差を示してございます。オレンジ色は上昇、青色は低下ということで整理をしているものでございます。

次をおめくりいただきまして14 ページ、こちらの方につきましては、調査が始まりました平成28年調査から令和2年調査まで低値で推移している属性ということをお示ししているものでございます。黄色く着色している部分が代表する属性でございまして、中に書いてある数字がここ5年間の数字の変遷というような形になってございます。

これらを分析していくということで、15 ページ以降分析の内容に入っていくということになります。主観的幸福感ということで、前回各項目についてタイトル出した方がいいというお話を頂戴してございましたので、今回少し分かりやすい形でのタイトル出しということをしていただいております。①といたしましては、前年との比較ということで令和2年調査については、先程お話ししたとおり、県全体で幸福だと感じる方々が56.2%

いらっしゃって、昨年より 3.9 ポイント上昇しているということでございます。

ただし、平均点につきましては、0.05 点上昇しているものの、t 検定、先ほどお話をした統計の手法で検定したところ、昨年度と比べ有意な差があるとはいえないということで、主観的幸福感については横ばいに推移しているという整理をしております。

②属性別の状況ということで、こちらの方につきまして今年の調査で有意な差があったものはどれかということでお示しをしているものでございます。男性が低く女性が高い、職業別では 60 歳以上の無職が減って、家族従業者が高いことの内容となっております。こちらのほうにつきましては、おめくりいただく図 5 のところにグラフでもお示しをしておりますので、御参考にさせていただいて、続きまして、イの前年との比較ということでございます。こちらの方につきましては、下の表にお示ししているこの 4 つの属性のところは前年と比べて有意な属性差が出ているというものでございます。

3 つ目、幸福感を判断する上で重視された項目ということで、先ほどもお話をさせていただきましたとおり、健康状況及び家族関係というのが特に重視されているということになってございます。

続きまして、17 ページ、こちらの方につきまして分野別実感ということになります。こちらの方には、先ほどの一覧表のところでも記載をしていたのですが、全体として今回 12 の分野別実感の県民意識調査で把握した範囲においては 1 分野が上昇と、5 分野で横ばい、6 分野で低下というような形で見られているということになります。

この結果を踏まえまして、各分野別実感の方の分析を 18 ページ以降してございます。まず、今回特にも注目すべきということでは、低下した分野の方から分析を行ってございます。こちらの方につきましては、まず「余暇の充実」ということで、こちらの方、分野別実感の概要、前年との比較ということでございます。こちらの方につきましては、実感平均値が 2.93 点、昨年調査よりも 0.12 点低下しているということになります。t 検定を行った結果、低下ということになります。

属性別の状況ということで、今年の調査の状況としては 50 歳代が低くて 20 歳代が高いということですか、世帯構成別ではその他世帯が低く、夫婦のみ世帯が高いというような形になってございます。前年との比較ということになりますと、表 9 のとおりということになってございます。かなり幅広の範囲の中で低下しているということになります。

これらを踏まえまして、②で分野別実感が低下した要因ということで整理をしております。こちらのほう、県民意識調査の結果、実感が有意に低下した属性ということで、先ほどお話ししたように幅広に低下しているのですが、大体 0.3 ぐらいの範囲の中で比重が減っているという状況もありまして、特徴的な属性が確認できないということでもあります。この状況を踏まえまして、補足調査で把握している分野別実感の回答理由が実感が低下した人の回答理由を抽出すると、「自由な時間の確保」、「趣味・娯楽活動の場所・機会」、「知人・友人との交流」といったような理由が示されて、補足調査結果において実感が低下した人の回答理由と、実感が横ばい、上昇した人の回答理由も比較もしてみましたのですが、こちらのほうについても特徴的な要因は抽出できないということから、今回当該実感の低下した要因といたしましては、「自由な時間の確保」、「趣味・娯楽活動の場所・機会」、「知人・友人との交流」といったものが要因であると推測されるという整理をしております。

続きまして、もう一つの分析としまして、継続して低い値、低値で推移している属性の要因ということで、3点未満で推移している属性については表10の方にお示ししている全部で6つの属性ということになります。これらの解析については、これらの属性で「あまり感じない・感じない」と回答した理由から推測することとしておりまして、これはいずれも「自由な時間の確保」、「知人・友人との交流」、「趣味・娯楽活動の場所・機会」という同一の理由でございましたので、これらの要因が低値で推移している理由ということで推測を行ったということになってございます。

以下同様の形でやっているのですけれども、「地域社会とのつながり」という部分につきましても、同様の分析をしてございます。こちらの方につきましても、表11のところ以前年と比べて属性が低下している部分についてお示しをしてございまして、分析、分野別実感が低下した理由ということにつきましても、こちらの方も先ほどの分析と同様になかなか特徴的な属性ということが見受けられないということで、最終的には補足調査から得られた回答理由から要因を推測するという作業をしてございます。

(3)の「地域の安全」ということで、こちらの方につきましても同様の分析をしているのですけれども、21ページの下②の「分野別実感が低下した要因」というところを見ても、補足調査から得られている理由は「自然災害の発生状況」、「自然災害に対する予防」、「社会インフラの老朽化」というような要因が挙げられてございます。

補足調査の結果見ても、横ばい、上昇とした回答の中で、実はほかのところでは災害の発生状況という理由も入っているのですけれども、犯罪の発生、交通事故の発生というようなものが上位を占めているということがございまして、ほかの回答の区分と異なって自然災害の部分がかかなり関連した理由が多くなるということになってございますので、それを受けまして県民意識調査の結果から特定の地域や属性に大きな偏りが確認できないために、特定の地域での自然発災というわけではなく、全県、全国的な自然災害が関連しているのではないかと推測をしてございます。

したがって、この分野につきましても「自然災害の発生状況」、「自然災害に対する予防」、「社会インフラの老朽化」という要因が推測され、特にも自然災害を受けて実感が低下しているのではないかと、近年全国的に頻発している自然災害を受けて実感が低下しているのではないかと推測を整理してございます。

以下、同様な形で低下部分については分析を進めておりまして、23ページ、「必要な収入や所得」というところがございまして、こちらのほうにつきましても、分析の低下の要因等については同様の形で進めているところではございますけれども、こちら継続して低値で推移している属性というものが非常に広範囲に広がっていますが、そちらのほうの要因分析も行っております。こちらにつきましても、ほぼ全ての分野が該当しているということもありまして、理由の抽出に当たりましては補足調査においてこの分野の「あまり感じない・感じない」というところから抽出が適当であるということで理由を抽出してございます。

ただ、その抽出した理由が分野別実感が低下していると全く同じということで、「自分の収入・所得額」、「家族の収入・所得額」、「自分の金融資産の額」というようなものが上位に来ていたということで、これらの要因が同一の要因ということで整理をしているものでございます。

あと、(6)「自然のゆたかさ」につきましては、26 ページになるのですが、こちらの方は逆に実感平均値が非常に高い数値で推移しており、全てが4点を超えた形で推移しているというちょっと特殊な部分がございますので、このところについても分析を行ってございます。こちらの方につきましては、先ほどまで低水準の3点未満のものと逆に補足調査で得られた当該分野の「感じる・やや感じる」という理由のところから整理すると、やはり「緑の量」が豊かであるとか「空気の状態」がきれい、あとは「河川、地下水、池等の水がきれい」というようなことが実感として挙げられているのではないかとということで推測をしているというものでございます。

実感が上昇した分野ということで、こちらの方につきましては、「心身の健康」ということで今と同様の整理をしてございます。前回、状況横ばいのところについてもトピック的な属性の説明があった方がいいのではないかとというようなお話を頂戴しているところでもございましたので、27 ページの丸の前年との比較というところで文言の方を整理させていただいてございます。

これらの属性の中で、おおむね貫くような形で理由が挙げられているものということでトピック的に選択させていただいているのが「睡眠・休養・仕事・学業・運動などのくらしの時間配分」というところが皆さんが上位の方に記載をされていますので、トピックの1つとして推測されるということでこちらの記載を追加させていただいているというものでございます。

以降、横ばいの分野ということで、28 ページから同様の分析を行ってございます。追加しているもの、例えば(2)の「子育て」ということで、29 ページの上の方の前年との比較というところで、こちらの方につきましては30代が実感として下がっているというところがございまして、こちらのいわゆる子育て世代のこの理由として挙げられているのが「子育てにかかる費用」です。「自分の就業状況(労働時間、休業・休暇など)」というものが挙げられているということでございます。

また、こちらの方につきましては、低値で推移している属性ということで20歳代も低値で推移しているというところございまして、こちらの方につきましても理由としては「子育て支援サービスの内容」、「子どもの教育にかかる費用」、「子育てにかかる費用」、「自分の就業状況」といったようなものが挙げられているということでございます。

あとは30ページ、「子どもの教育」におきましても、継続して低値と推移している属性ということでこちらも20歳代というのが同様に上がっておりまして、内容としては「人間性、社会性を育むための教育内容」、「学力を育む教育内容」、「不登校やいじめなどへの対応」、「図書館や科学館などの充実」というような理由が挙げられているということでございます。

先ほどのトピック的なものの追加ということで、(4)、「住まいの快適さ」というところで、こちらのほうについては、男性がちょっと下がっているという、分野別実感全体としては横ばいなのですが、男性30代の属性が下がっているという部分もございまして、こちらの理由をトピック的に挙げてみますと、立地の利便性ですとか公共交通機関の利便性というようなものが推測されるのではないかとということで記載を追加させていただいてございます。

32 ページ、最後になりますが、「歴史・文化への誇り」ということで、こちらの方につ

きましても全体としては横ばいなのですけれども、属性別の前年との比較というところでトピックス的なものの追加をしている。

ただ、ちょっとこちら上がっているものと下がっているもの両方ございますので、両方記載をさせていただいてございます。上がっているものということとしては「30代」が実感として上がっておりまして、「地域のお祭り・伝統芸能」といったようなことを要因として推測されますし、それから低下した属性というところについては、「誇りを感じる歴史や文化が見当たらない」などの理由が推測されているというような形で今回記載を追加させていただいているというものでございます。

以降、まとめの部分につきましては、今までの分析をさせていただいた内容につきまして、簡略化してまとめて記載をしているという内容になりますので、説明の方は割愛をさせていただきたいと思っております。

前回の御審議を受けまして、今回こういったような整理としてございますので、御意見の方を頂戴できればと思っております。よろしく申し上げます。

○吉野英岐部会長 ありがとうございます。一通り修正点並びに補足点についても御説明をいただきました。

それでは、ここから先は討議ということですので、何か御質問、御意見ありましたら自由にお願ひしたいと思っております。

では、谷藤委員申し上げます。

○谷藤邦基委員 事務局が大変御苦労してまとめられたと思っております。感謝申し上げます。

前もって頂いたものが、手元にあるものと若干違っている部分もあるようですので、もし違っていましたら、もう修正済みであれば指摘していただければと思っておりますが、22ページをお開きください。「地域の安全」のところで、いろいろと分析内容が書いてあるのですけれども、以上を踏まえるとというところ、これは読んでいて別に違和感なく読めるのですが、要はこれまで令和元年東日本台風という具体的なものが例示としてあったと思うのですけれども、そういう特定の災害だけではなくてというところは確かに私もそういうことは言った記憶があるのですけれども。だからといって、それを削った方がいいとまで言ったつもりはなくて、ちなみに34ページを見ると、真ん中のあたり、「また、県民意識調査結果の属性別の変化から」というところの中に、令和元年東日本台風災害というのが入っているのです。だから、これが本文にあって、まとめにないのは分かるけれども、本文になくて、まとめにあるというのはおかしいので。逆に言うと、これは私は本文の方にも入れておいていいと思いました。

あと、読んでいてストレスを感じる部分というのを二、三言わせていただくと、まず8ページの表3です。個別に見て審議しているときは全然感じなかったのですが、今回通読してみて、この「感じない・あまり感じない」、「どちらともいえない」、「やや感じる・感じる」というこの流し方が、ちょっとあれっと思いました。というのは、5ページの図3なのです。「感じる」、「やや感じる」というふうがいい方から流しています。表3に来て逆の流れとなっているのです。一瞬ここであらっと思って、ちょっとストレスを感じる。だから、ここは変えた方がいいのかなと思いましたが、ただ一方なぜ今まで違和感を感じ

なかったかという、附属資料の方の細かい分析をいろいろやっていただいていますけれども、それが全部この流れになっているのです。だから、全然違和感を感じなかったのだろうなと思ったところでした。だから、ここ変えた方がいいのか、このままの方がいいのかちょっと悩みつつも、ただ通常として見ると違和感を感じたのです。違和感とちょっとストレス感じた。よく読めば別に分かるのですけれども、ちょっとした違和感を感じます。

それからあと、まとめのところの文章なのですけれども、よく読めばそれはそれで分かるのだけれども、例えば33ページ、「主観的幸福感について」のところの3段落目、属性別に前年と比較するとということ、いろいろ項目が挙げてあって、この文章を初めて読むと、結構ストレス感じる文章なのです。例えば50歳代、ひとり暮らし、10年未満、これらの項目が何を意味しているかというのが、最後に来ないと分からないのです。最後に来て上昇していますとなると、あれっ、そうするともう一回、何が上昇してそうなったのかなど。以下、みんな同様の傾向があります。

ただ、下の方はまだ低下した分野ということで書かれているから、まだ推測はできるのですけれども、でもやっぱりストレスは若干感じます。だから、そこはちょっと工夫してほしいです。

具体的に言うと、列挙する項目が何なのかということが最初に書いてあった方が読みやすい。ストレスがないのです。特に私みたいに年を取ってきますと記憶力が弱いので、今のような書き方だともう一回読まないといけなくなる。ちょっとそこを検討していただきたいなと思います。

ちなみに、例えば同じページの下の2の1の(1)の「継続して」と赤字のところ。ここは「継続して低値で推移している属性は」と来るからあまり違和感がないのです、読んでいて。こういう書き方であれば違和感が少ないです。そこはちょっと御検討いただきたいなと思いました。

あと、本当に細かいことなのですけれども、同じ表3とか表4のことですけれども、「地域社会とのつながり」のところ、「自治会・町内活動への参加」となっていますけれども、これ町内「会」活動で、会が抜けている。もう一か所おかしなところありましたけれども、そこは直っていました。私が気づいたところ、あるいは感じたところはそんなところです。

○吉野英岐部会長 では、事務局からお答えできる範囲で。

○池田政策企画課主任主査 1つは、表3のところの順番の入替えというのは、すみません、全体構成等があるので、検討します。ちょっと今は即答しかねるところです。

○谷藤邦基委員 ぜひとは言いません。

○池田政策企画課主任主査 持ち帰って、検討させていただきたいなと思います。

あと、表現の方につきましては御指摘のとおりですので、修正してまいりたいと思います。

東日本台風のところについては、整理をちょっと忘れていましたので、入れる方向できちんと整理させていただきたいと考えてございます。

○吉野英岐部会長 ありがとうございます。我々は何度も読んでいるから、分かっていることが書いてありますので、初めて読んだ方にとってみて、ずっと頭に入るように書いておかないと、後々これが恐らくフォーマットになってしまうので。2年目以降はこの形でもうやっていくということになれば、今年が肝要です。初めて読んだ方でもすぐ頭に入るようにできるだけ工夫をするということをお願いしたいと思います。ありがとうございました。

山田先生、途中でもしかしたら抜けるかもしれないので、早めに。

○山田佳奈委員 ありがとうございます。途中で抜けさせていただく可能性が高いので、先に2点ほど御提案というか、こういう意見もありますよということで提案させていただきますが、谷藤委員さんと同じですけれども、本当にきれいに御修正いただきまして、ありがとうございます。以前よりとても分かりやすくなったのではないかなと思っています。ありがとうございます。

提案の方は内容と申しますよりは、その表記の仕方といいますか、そういった形での気がついた部分です。

まず1つは、2ページ目の表2のところでは分析に係るスケジュールというところ、分かりやすくつくっていただきました。ここで、ずっと継続して県民意識調査というのはやってこられているということもありますし、あと今回は特に平成28年という前のところからの継続の調査を前提としているということもあると思いますので、この表2の矢印のところ、県民意識調査、令和元年度の上の方に平成の何十年度と、点々でつながっていますよというのがあってもよろしいのかなど。かつ、県民意識調査については、令和4年度以降、あと令和5年度以降、多分なさるのだと思うので、県民意識調査ずっと続くのだよというようなところがあってもよろしいかなど。それが1点です。

あとは、図表のタイトルのところなのですが、今回県民意識調査から補足調査という2つの調査があるがゆえに、2つの調査の結果の表が、図表が入っていることになっているので、このタイトルのところで補足調査の結果なのか、県民意識調査の結果なのかというのが分かるかという趣旨での発言です。例えば8ページ、9ページの表3と表4のみが恐らく今回共通して出てくる補足調査の結果で、他は県民意識調査の結果ということだと思います。それこそ先ほどからお話があるとおり、これ取って見たときにどちらの表なのだろうというのが分かったほうがいいかなと思います。表3、表4のみに補足調査と入れるのか、どういうふうに入れるかというのはいろいろ技術があると思いますけれども、そこは分かるかというところがございます。丹念に読んでいけば、何をここは示しているかというのが分かるかと思うのですが、ポイントだけ読むという場合もあると思いますので、万が一ということでご提案をしたところです。

○吉野英岐部会長 御指摘の点は分かりましたか。

○池田政策企画課主任主査 はい。県民意識調査という調査の区分のところについては、そのタイトルの方に入れるということで検討はしてまいりたいと思います。そうすれば、

分析の方の表の、例えば低値で推移している属性とか、有意な変化があった属性みたいなところにも主には県民意識調査と入れていくような感じで。例えば18ページのところの表9とか、19ページの表10のようなところにも県民意識調査というのは入れていくようなイメージにした方がよろしいですか。

○山田佳奈委員 ここは全部に入れるかどうかというのはどうかなという気もしないでもないので、イメージとしてあり得るとすると、県民意識調査であれば（県）みたいな、補足調査は（補）みたいな形で簡単に示すというのものもあるかもしれませんが、あるいは最初の方に注記ということで、補足調査と書いていないものは全て県民意識調査であるということで断ってしまえば、それはそれとしてわかっていただけるのではないかと。補足調査のところだけ入れるということの方がシンプルかなという気がするのですけれども。

○吉野英岐部会長 どうでしょう。

○池田政策企画課主任主査 今の原案の私の考え方からすると、調査結果、第3章のところについては各調査毎に分かれていたので、その冒頭のところの調査名のところについては割愛をしまして、分析結果の方については、こちらに入ると各調査毎のカテゴリーから出ている形になったので、調査の名称をちょっと頭に冠していた部分があったのですが、最終的にそれが不統一な形になってしまったということもございますので、タイトルの方に入れ込んでいくような形で1回整理をしてみたいと。それで、その後で皆さんに御覧いただいて修正をかけていくような形にさせていただければと思います。全体から見えないとなかなかバランスの方も分かりにくい部分があるかと思っておりますので、そのようにさせていただければと思います。

○山田佳奈委員 例えば17ページの表8のところ、分野別実感のところですか、おっしゃっていただいたところかもしれませんが、文章の方の令和2年調査結果の代わりに令和2年県民意識調査と入れていただいたら、それはそれでこのページのことなので分かるかもしれません。そこはやり易く、かつ、分かり易ければいいかなというくらいです。

○池田政策企画課主任主査 分かりました。そのようにちょっと検討させていただきます。

○吉野英岐部会長 ありがとうございます。

そのほか、いかがでしょうか。

ティー先生はいかがですか。

○ティー・キャン・ヘーン委員 はい。

○吉野英岐部会長 和川さんはいかがですか。

○和川特任准教授 中身については特段問題ないのですが、せっかくの機会ですので、

少々細かいところの表現について、御指摘をさせていただきます。

まず、2ページでございます。先ほど山田先生から御指摘のあった分析に係るスケジュールなのですけれども、元年のところの分析にパネル調査という表現が出ているのですが、パネル調査という表現、レポートの中では現在使っていないですので、このときのパネル調査と使っていたからという意味であえて記載していたのであれば問題ないのですが、ここは補足調査でいいのかなと感じました。

次に、4ページ目になります。図の1のところの幸福感の推移なのですけれども、「幸福と感ぜない」とネガティブな方には「感ぜない」と書いているので、幸福の方にも「幸福と感ぜる」というような対比にした方がよろしいのかなと感じました。

14ページでございます。表6のタイトルなのですけれども、「(平成28年調査から令和2年調査まで低値で推移している属性)」とあるのですが、本文では平成28年調査から令和2年調査まで一貫して低水準で推移しているというように表現がありましたので、それと合わせた方が分かりやすいと感じました。

15ページ、隣になります。一番下の③の部分、幸福感を判断する上で重視された項目の表現の中で、ゴシックのところ「幸福感を判断する上で県民が特に重視した項目は」とあるのですが、あくまでも調査結果がどうだったということを淡々と書く方がいいのかなと考えておまして、ここの「県民が」という表現はなくしたほうが良いと思います。

包括的なところで1点、最後になるのですけれども、分析のところ一部県民意識調査ではこうだった、補足調査ではこうだったという説明が入るところと、全く入らないところとあります。例えばなのですが、18ページの下②番、県民意識調査の結果こうでしたとか、補足調査ではこうでしたと入るのですが、表9の上の前年の比較は「調査は」となっていて、県民意識調査と補足調査がある程度分かりやすいような形で表現が整理がされるとなよろしいと感じました。

以上、細かいところですが、感ぜたところでは。

○吉野英岐部会長 確かにパネル調査と最初入れたのですけれども、今あまりパネル調査という言葉使わなくなりましたので、補足調査で統一してはという提案ですね。

いいですか。

○池田政策企画課主任主査 御指摘の点については修正させていただきたいと思ひますし、一番最後の指摘のところは山田先生と同じ議案の御指摘だと思ひておりますので、もしかするとこちらの分析の方については先ほど御指摘を受けたように、タイトルのところに県民意識調査ときちんと書いていく形で整理して行って、その前の方の図表のところについては、県民意識調査、補足調査というのを括弧つきに入れていくような形で整理して行ってもいいのかなと考えてございました。そういった案を後でお示しをさせていただきたいと思ひます。

○吉野英岐部会長 よろしいですか。

私も初めて読んだ気持ちになってもう一回今日の資料1を拝見して感ぜたところを少し申し上げます。

5 ページの図 3、結構これは大事な分野別実感が一目で分かるようなものなのですからけれども、事務的なこと言うと一番下にある平均点の算出方法についてと書いてあるところは、平均値の方がいいでしょうね。

もう一つは、この並びなのです。1 から 12 の並びというのが、「感じる」プラス「やや感じる」の多い順に並べたと書いてあるわけです。確かにそのとおりになっていて、右側に平均値を入れているのです。だけれども、この後の分析の主眼というか、何をもちいて分析をしたかという平均値をかなり重視して上がった、下がったとか、横ばいとか平均値でもって議論を進めているので、そういう方針でやるならば、ここの分野別実感の並び、私はむしろ平均値で並べた方が誤解がないのかなと。というのは、若干右側の平均値の並びを見るとずれるのです。つまり、ピンクと薄ピンクは多いのだけれども、青とか紫の色が増えてしまうと下がってしまうのです、青は特に。なので、例えば地域のつながりの 6 番と、仕事のやりがいというのは、仕事のやりがいの方が平均値が高いのですよね。心と体の健康なんかも実は 3.15 と低いのです。どちらを大事にするかという話なのです。グラフ的に見ると、ピンクの方を見た目でやっていたので、ピンクと薄ピンクの「感じる」、「やや感じる」の順番で令和 2 年の順番にはなっているのだけれども、平均値的に見るとちょっと若干ずれてしまうと。どうしようかと思っていたのです。

このままでも大丈夫といえば大丈夫なのだけれども、しかも平均値が一番右側にあって、付け足しといたら平均値に失礼ですけれども、平均値はこんな感じですよという、むしろその後これを結構大事な値として使うとなると、要するに一番左側に持ってきて、平均値は左側にぱんと見せて、内訳はこんな感じですよという方が後の議論につながりやすいと思ったのです。どうしても、どういう分野が実感されるのでしょうかねと、普通に考えてですよ、分析はともかくとして、県民の方々はどの分野についてより実感的に感じられるかという順位かなと。ランキングみたいに見えるとなると、その順位の意味は何かというと、やっぱり一貫して平均値で見ました方がいいのではないのか。なので、ちょっとここをいじるとガチャガチャ変わりますけれども、これは別にその後のところにあまり影響は及ぼしていないので、この順位をまずきちんと県民の方々にお示しするという意味では平均値かなと。例えばいろんなところでぱっと見出しが出てくると、やっぱり自然に恵まれているという実感は県民の方々非常に高いです。4.16 ですか、4 を超えるというのは高値、高い値と表現していますので、言ってみれば 4 を超えたのはこれだけなのです。

だから、自然のゆたかさとその後の家族関係というのは、確かに両方とも高いけれども、やっぱり一番が断トツに高いというようなことも文章で書いてもいいのではないのかなと。4 を超えたのは、自然に恵まれているという分野です。であって、その後こういった順番で続くという、文章の少しスペースがあるので、次のページに、少し増やしてもいいのではないかな。3 点台はこういったものです、順番に平均値で並べるとこういうことですと。

残念ながら、2 点台というか、実感がなかなか感じられないというのが現状でもやっぱり必要な収入や所得が得られているということは低位といたらあれですけれども、低いし、かなりという言葉使わなくていいと思うのですけれども、2.56 というような、ほかの分野に比べれば低いと言わざるを得ないと思うのです。これ、このままでいいということは全くないので、ここはもうちょっと引き上がらないと、自然は豊かでいいのだけれども、なかなか収入、所得の実感が無いというままでは、それはやっぱりいいわけではなく

て、そういったことを少し初めて今回表にして文章にするととなると、もっと出してもいいのかなと。しかも2年間分出ているので、残念ながら収入、所得はあまり改善していないとか、少し下がったくらいですから。引き続き低値だったと書いてもいいので、まず令和2年の状況と、そして令和2年と平成31年を比べたときというように少し分けて書いても、ここでぴょこっと切り取られる可能性があるのも、実際いろんなところで。その並びについての解釈をきちんとしておくというのが1点です。

それから、8ページで分野別実感の選択理由で、ここ文章上は書いてあるのだけれども、どうしても13に見えるのです。これ、つまり健康分野で2つに分かれているから、12とずっと通して書いてあるのですけれども、ここの分野、補足調査についてはどうしても両方別々に聞いたので、13個になってしまうのです。12個にできないと言ったらいいのですかね、だから私はこの「からだの健康」と「こころの健康」というのがもし分野で合わせるのなら、1-1、1-2にしておいて、ほかの分野を余暇の以降は2にしておいて、全体の5,000人調査と600人調査が一応対応しているようにしておいた方が答えというのか、何で13に増えているのですかという、ちゃんと読めば分かるのですよというのはそのとおりなのだけれども、簡単に読んでしまうと1個増えていますと言われるところをあらかじめ押さえておいた方がいいような思いがちょっとしました。あるいは、「こころの健康」と「からだの健康」の間を少し点線、ちょっと強い点線にして、ここは同一分野なのだけれども補足で2つ聞いたので、こういう形になっていますというところがあってもいいのかなと思いました。

それから、次の10ページから12ページがかなり全面的に赤を入れてもらったのですけれども、11ページの最後に分野別実感が低水準で推移している「属性とその要因」だと思うのですけれども、これ実際の分析は高水準も入れているのですよね。だから、ここもう一つ入れておくか、何か低水準または高水準入れるとか、何か入れておかないと実際は高水準の分析が最初には書いていないのに、実はやっていますということなので、ちょっとそこの表現の工夫をしていただいた方がいいかなと思いました。

そして、表5と表6が第4章の頭で来るのだけれども、並びとしては。例えば12ページ、13ページ、14ページと。ここはいきなり表があって大丈夫かというちょっと心配があって、我々何度もこの表を見ているので、ああ、一覧表で示してこういうことねというのですけれども、差し当たっての文章がないのです、ここ。スペース上入れられなかったというのもあるのだけれども、ちょっとぱっと読むとこういうふうに整理しましたというのでぼんと表が入るから、ちょっと「んっ」と思うし、この表がまた結構大きな表なので、これ全部読んでからでないとかに行けないと思ってしまわれるとつらいので、ちょっとこの表の下に何か文章入れるか、表の上に入れるか、ちょっとこの表についての御説明を少し入れておいた方がいいかなというのと、この空欄が何なのだと思う人がいないかと。つまり大体が上昇で、青は低下ですと、これは書いてあるとおりのだけれども、書いていないというところは数字がないのですかというのと数字はあるのです。数字はあるのだけれども、低下とも上昇とも言えないとか、ですよね、たしか。横ばいには使った数値が入っているので、今回は表を見やすくするために全部消してもらっていますが、消してしまっているのかなという気がちょっとして、でも全部入れてしまうとうるさいなというのもあって、薄く入れるかどうかです。つまり、別に数値出したくないという意味ではない

ですと。数値は数値なのだから幾らでも出しますけれども、今回は分析対象としては上昇とか低下について主にやっていくので、そこはちょっと色をつけてやると、カラーを入れて表現しているのであって、決して空欄のところの数値が、数値がないという意味ではないし、隠しているという意味でもないのですというあたりをうまく表現してもらえないかなという感じがしました。

あと、どうしても字が小さくなるので、誰にでも読んでもらわなければいけないものなので、ちょっと字が小さいかなと。お若い方はまず問題ないのだけれども、いろんな方に読んでもらうときに、見えないぞと言われるよりは見えるようにしてあげますというか、ユニバーサルデザインをやっていますというような、特に数字が入ったところは大事だけれども、小さいからいいや、読まなくていいやと思われてしまうとちょっと悲しいので、数字が書いていても読んでいただけるようなレイアウトを少しそれはあった方が、拡大コピーして読んでくださいというわけにいきませんので、ちょっとそこだけ。10.5ポイントかな、それなりに読みやすい大きさで書いていただいているのですが、どうしても表は小さくなってしまいますので、最後のレイアウトのときに御検討いただけると多くの人に読んでいただけるのかなと思いました。

それから、今の関連で分析のところでも各分野毎に継続して低値、あるいは高値というのは出てきますけれども、これも③が大体継続して低値で推移している分野の要因という位置づけになるのですけれども。なのだけれども、26ページだけ③は継続して高値なのです。これ高いからです、当然高いから。そうすると、本当を言うと③は低い値を分析するのであって、ないのだったら③はなかったと書けばいいと思います。④は、継続して高値という、ないのだったらないと書けばいい。ここだけ読み飛ばすと高値と読んでくれなくて、低値だと思われてしまうつらいので、③の意味がちょっと違うのかなと、ちょっとくどいけれども、書いてもらった方がいいかなという気がちょっとしました。

それから、継続して低値の要因と書いてあるのですけれども、継続して低値で推移している属性とその要因がやっぱりいいかな。まず、属性を出してくるので、そしてその背景の部分が考えられるのではないかという。まずは属性はこれですと。次に、その背景はこれですと。その要因というのをちょっと1つ文字を入れてもらった方がいいかなという感じでした。

いずれにしても、実は今回データが少なく2年分しかないですし、まだ600人調査というのも始まったばかりですので、要因をすごく強く押し出すわけにはなかなかいかんかったと思うのですけれども。いろいろ検討してみたのだけれども、なかなかこれだという要因はこれがまだはっきり分かっているものではないというのを特に今年度の報告書の限界といえば限界だけれども、これ数字がそろってくればもうちょっと分かってくるところが出てくると思います。だから、あまり要因にすごく時間をかけて踏み込んでも、まだデータが少ないから、少ないので、むしろやっぱり分野別実感が数字が分野によって違っていたということと、それでやっぱりそれがどのような推移をしたのかというような、事実というか分析の一手手前で事実に基づいて記述を中心に、実はそれはそれでいいのですけれども、今年しばらくまずやってみて、データがそろって3年分とか4年分とか出てくれば、より正確なことを次回のレポートでは申し上げていくというようなスタンスで進めてもいいのではないかなと思います。

最後に 17 ページなのですけれども、17 ページも分野別実感について上がった、下がったを言っているわけです。これ、ぱっとこの表を見ると、どうしても政策分野が前になるので、あれっ、政策分野の話だったっけというのがあって、ただ政策分野という言葉はあまり使っていないですね、ほかのところでは。でも、一番左側にあるからつい目立ってしまって、政策分野なのだと急に思い出してしまうとあれなので、分野別実感のところだけちょっとゴシック入れるとか、日本語にですね、分野別実感の方に目線を合わせてもらえればちゃんとここ 12 個あるのですと。一応県の方の都合で、これは政策分野で 8 つには分けているけれども、今大事なのは分野別実感の話なので、真ん中の太いところを見てくださというちょっと誘導をすとか、その方がぱっと見たとき左側に目が飛ばないようにした方がいいというような気持ちもありました。

あれこれ言ってすみません。私が感じたのはそんなものです。どうでしょう。

○池田政策企画課主任主査 ありがとうございます。今御指摘の内容については、修正をしていきたいと思うのですが、何点かちょっと御確認をさせてください。

1 つは、12 ページ、13 ページの表についてなのですが、ここにはない数字については、5% 有意でないものです。なので差引きの数字とすれば載せられるのですが、有意ではないので、今有意でないものは除いた形で整理をしています。

○吉野英岐部会長 これあれですか、資料編に全部載せればいいのでしたっけ。

○池田政策企画課主任主査 資料編の方には、載せる予定です。

○吉野英岐部会長 そうしたら、例えば注釈でこの表は統計検定の結果、5% 水準で有意なものについてのみ記載し、全体の数値については資料編の何ページに記載されているとかと入れておけば、熱心な方はそちらを御覧いただくかなと、ちょっと参照を入れておくというか。

○池田政策企画課主任主査 分かりました。そのように再度進めていただきたいと思えます。

あともう一点、自然のゆたかさのところでありました高値の話で、④にしたらというお話があったのですが、そうするとほかのところについて、例えば分析手法のところ、高値の部分については別途、例えばほかのところも④をつけて高値で推移している属性はありませんみたいなことを記載すべきでしょうか。

○吉野英岐部会長 ただ、ほとんどそれがないので、ちょっとうるさいのですよね。ないのに何度も書くのかという、しつこいですよねというような御指摘をいただくかもしれないけれども、「自然のゆたかさ」のところはちょっとほかと違う分析ですよ。これ目立つようにしてくればいいというか、ここだけ高値というので、ちょっと何かうまくぱっと見て分かるように。

○池田政策企画課主任主査 もしかすると、であれば分析手法のところでは低値または高値というような話の形で整理して、低値ではこうでした、高値はありませんでしたぐらいの感じでいけばスムーズかなと思ったので、そういった整理の方で示したいと思います。

○吉野英岐部会長 特にこの4点以上というのは、大したことないと思われてしまうかもしれないけれども、やっぱりほかの分野と比べても本当に高いですし、だってこれ「感じる」と「感じない」しかないみたいなところですよ。そんなにやっぱり県民の皆さんは、この自然というものを実感していただいているのだというような意味ではすごくプラスの分野だと思っているのですよね。だから、そこはやっぱり大事にしていくというようなメッセージにもなると思うので、これだけ高いというのがやっぱり岩手県の特徴であり、守り育てるといふ知事がお使いになる言葉でいえば、この分野は幸福に対しても一つの重要な分野として今後ともこれは維持していくと。最後にぽこっとあるから、大したことないように思われてしまうけれども、この位置が。実際この自然の分野は他県との比較ができないので、分からないですけども、ほかの分野と比較する限りやはりかなり高い実感をいただいているという部分では、それを実感してもらいたいという、そういう意味で申し上げました。

○池田政策企画課主任主査 ありがとうございます。では、そのように修正の方は進めたいと思います。

○吉野英岐部会長 あと、また先生方でお気づきの点があれば。
概要というのはないのですものね、つくるのですか、最後は。

○池田政策企画課主任主査 つくります。

○吉野英岐部会長 つくりますか。では、次回概要版も含めて、端的に見せたときはここという資料を。

○池田政策企画課主任主査 そのような資料も御用意させていただきたいと思います。

○吉野英岐部会長 プレス版もあるかもしれないし、県民の方にも全部読んでもらうのは大変なので。概要版の取捨選択も難しいですけども、多分A4 1枚ぐらいで説明をなさいと言われる可能性がありますよね。ないですか。

私も総合計画審議会でこれ全部読み上げたら、これで終わりにになってしまうのではないかと思いますので。総計審でこの辺が大事なところですよというように御説明しなければいけないとは思っていますので、そういうものがあると。

○池田政策企画課主任主査 今想定しているのは、全体概要としてはA3裏表で。

○吉野英岐部会長 A3裏表ですか。

○池田政策企画課主任主査 理由のところをある程度入れなければいけないとなると、かなりスペースが必要になってくると思っています。あと、説明するときにはもしかするともう少しA4判のものもつけ、簡略的なものを御用意ということも少しは考えますが。

○吉野英岐部会長 なるべく正確に説明するには、それなりの分量が絶対必要で、かえって省略したことで見落とされるということは確かにあるけれども、ここ難しいところで、多くすればいいのだけれども、多くすると読むのが難しいというか。そこは上手に、適切な概要版を期待しています。人任せではいけないのですけれども。

○池田政策企画課主任主査 今のところ想定しているのは、やはり今回下がった分野と理由は説明しなければならぬと思いますし、あとはやっぱり3点に満たないで来たもの、結構ございますけれども、それらのところもやはり理由も含めて記載しなければ、概要版としての意味がなくなってしまう可能性があるんで、そういった意味では先ほどお話ししたようなかなりスペースが出てくるということ。

○吉野英岐部会長 よろしくお願ひします。力業でぎゅっと圧縮して、説明に向くような資料をつくっていただきたいと思ひます。

そのほかよろしいでしょうか。

では、若干表の修正等々していただくことになると思ひますが、大分議論を重ねてきましたので、今回についてはこの方向で進めていただいて、次回で最終案を同意したいと思ひますので、引き続きよろしくお願ひ申し上げます。

(2) その他

○吉野英岐部会長 それでは、その他についてはありますか。

はい。

○池田政策企画課主任主査 すみません。私どもの方から2点ほど御用意してございます。

資料2の方、こちらにつきまして1点目につきましては、幸福について考えるワークショップ、2点目については次回の主要課題として想定しているのですけれども、補足調査の見直しということ念頭に置いた資料を御用意させていただいてございます。

先に資料2の幸福について考えるワークショップについてということで、幸福について考えるワークショップにつきましては、県民の皆様に幸福についてそれぞれ考えていただく機会を設けるということで開催をしてきているところではございますけれども、こちらの方を本部会の分析の中でも活用できるような整理ができないのかということで今回この資料を整理させていただいてございます。

内容といたしましては、従来どおり県民の皆様に幸福について考えていただくというスキームはそのままに、今回の分析を行われているような中身、特に実感が変化した人の主な回答理由の具体的な内容ということで、補足調査の方でいろいろな理由をお聞きしてはいるのですけれども、その理由について県民の皆様がどのようにお考えになって、例えば

より具体的な理由、例えば今回の補足調査の中でもいろんな選択肢を御用意していて、かっこで具体化したものを何点か用意しているのはあるのですけれども、例えば災害発生時の行政の対応において、避難所の開設、支援の対策、復興対策など書いている部分ですけれども、そういったような中身をより具体化できないかというようなことで御意見を頂戴していくということを1つ想定してございます。

あと、もう一点なのですけれども、補足調査の項目の改善ということで、現在お聞きしている内容をあまり大きく変えてしまうとなかなか追跡していくことも難しくなるのですけれども、例えば追加をするのですとか、あとは今ある回答項目をもう少しこうすれば自分たちも答えやすくなるのか、そういったような部分でワークショップの中で御意見を賜りながら、次年度の調査、もしくは今回御審議いただいています年次レポートへの反映とか、そういったようなものに生かせるような形で展開をしたいということで考えてございます。

ただ、大変申し訳ございませんが、今年につきましては新型コロナウイルスの感染症対策もちょっとございまして、ワークショップの方については開催を見合わせていただきたいと思いますので、実際は来年度からこの内容について進めさせていただければと考えているところでございます。

続けて資料3でございます。こちらの方につきましては、これから我々といたしましても補足調査の回答理由の設問の部分について、もう少し検討してまいりたいと考えているところでございますけれども、今までの御審議の中、もしくは事前に御説明をさせていただく中で頂戴していた御意見について、現時点で整理をさせていただきたいと思って作成した資料でございます。

1つ目ですけれども、県民意識調査と補足調査、こちら開始時期が一緒なのですけれども、終了時期が補足調査の方が1週間ほど早くなっていたというところがございます。こちらの方につきましては、来年調査から完全に一致させる形で進めてまいりたいと思っています。やはり2つの調査の整合性が分かるという趣旨から考えますと、そういったようにすべきということで改善をさせていただきたいと考えてございます。

また2番目、こちらの方は部会の御審議の中でもお話があったのですが、世帯構成別におけるその他世帯、かなり数としても大きいというところがございますので、こちらの取扱いについて検討をさせていただいたところでございます。世帯構成別県民意識調査の方におきましての世帯構成別の詳細な区分を追加しようということで、おめくりいただきました修正案を御用意させていただいております。こちらの内容を御覧いただければ、4の米印の方です、2または4に丸をつけられた方のみお答えくださいということで、中に概要が整理されております。こちらの方に該当するものを丸つけていただければ、その世帯の構成内容が分かってくるということですので、その他世帯が多い場合には、ではどういった方々かということも追いかけていけるようになるという形で進めさせていただければと考えているものでございます。

3つ目といたしまして、実感の回答のところの今のところについては「感じる」から「感じない」までの5段階で前年との比較をしながら実感の変動を確認していくところなのですが、実感の回答が「上昇した」、「下降した」という2区分で調査してみてもどうだというような御意見を頂戴したところでございます。こちらの方について、理由のところ書いているのですけれども、我々としてはまず主たる調査で県民意識調査と同じような設問

で回答を行った方がいいのではないかとということが1点と、やはり前回回答時の実感と調査の回答をするときになかなか比較することは回答者も難しいのではないかとということ。あとは調査の継続性ということも踏まえると、現行のまま実施させていただけないかということで事務局案の方を御回答させていただいています。

最後に4つ目、ポジティブとネガティブ、いわゆる回答理由としてポジティブな要因とネガティブな要因分けて聞いたらどうでしょうということでお話をいただいたところがございます。こちらの方につきましては、昨年の部会の中において補足調査の設計をするときもちょっと同様のお話がございまして、その内容を踏まえて今の形になっているところもございまして、調査も始めたばかりということで少し県民調査の継続性も踏まえてこのままの形で当面の間進めさせていただきたいということで対応方針の方を整理させていただいたところがございます。

以上について御意見等をいただければと思います。よろしくお願いたします。

○吉野英岐部会長 ありがとうございます。その他の意見、大きく分けて2件です。

まず、前段で御説明ありましたワークショップについては資料2に書かれているとおりでいうことで、このように進めていきたいところではありますが、今年度についてはコロナウイルス感染予防があり、ちょっと実施が難しいということで、来年度以降ワークショップについてさらに実施していきたい。そして、それを分析の参考材料としても活用していきたいということですが、こちらはよろしいですか。今年度は、それでは見合わせるということで進めてください。

それから、もう一つ資料3でありました主に4点ですね、調査票あるいは調査の仕方についての微修正というか、見直しについて御提案がありました。調査時期については原則的に5,000人調査と600人調査は開始、終了とも同じ日にすると。してはいけないという意味ではないので、これよろしいですか。では、来年1月から2月にかけては同時スタート、同時終了でお願いします。

2つ目は、世帯構成別におけるその他世帯の区分について。これについては、2枚目です。こういうアンケートの項目にしたいということですがけれども、ちょっと今数字はちょっと飛んでしまったのですけれども、その他のところ、結構あったのですよね。

○池田政策企画課主任主査 はい。

○吉野英岐部会長 どれくらいですか。

○池田政策企画課主任主査 12ページの一覧表で見るとわかると思うのですが、世帯構成別のその他世帯のサンプル数は393です。

○吉野英岐部会長 資料1のね。

○池田政策企画課主任主査 はい。

○吉野英岐部会長 資料1の12ページで、分析の区分けとして世帯構成が見られていますが、その他が393、これは5,000人調査ですね。回答者数見ると1割ぐらいその他に入ってしまうということですので、いろんなものが入り過ぎてしまって、ちょっとこの分析が非常に難しいということなので、このその他の中身をもう少し分かるように質問できないかということで御提案があったのが今の2枚目の修正案ということでよろしいのですかね。

それから、これ5,000人調査の方を直してもらうわけですよね、まずは。

○池田政策企画課主任主査 補足調査では追いかけるようになっていたわけですので、こちらの方が。

○吉野英岐部会長 そうすると、調査統計課さんにもお伺いしなければいけない。

○池田政策企画課主任主査 今回のは調査統計課よりいただいている案です。

○吉野英岐部会長 本家の方からこのように直してよろしいかというようなことで、こちらから本家にお願ひするというよりも、はい、主管課の方から今回の調査結果を受けてこういった形でやれないのかというような御提案だということですね。ありがとうございます。

ということで、いかがでしょう、中身について。

○谷藤邦基委員 この案で私もいいと思っておりますが、ちょっと気になったのは修正案の下のほうに想定する集計結果がある中で、「施設等の世帯」というのは、多分この既にあるものと比較したときにあまり整合性がないと思います。典型的にもしやるとすれば、兄弟姉妹のみの世帯みたいなのが出てくるかなと、この間の若菜委員の話のとおり。

○吉野英岐部会長 老老介護とかね。

○谷藤邦基委員 ええ、あとは高齢で、兄弟姉妹だけで暮らしている世帯というようなのがもしかしたら出てくるかもなという気はしておりますけれども。

だから、兄弟姉妹のみの世帯というようなくくり方であれば、ここの中では整合性があると思うのですけれども。ちょっとそこが気になりますが、これからの話なので、実際やってみてからということにはなるのですけれども。いずれこういう形で少しその他の中身いろいろ分析できるような仕掛けとしてはこれでよろしいのかなと思って拝見しておりました。

○吉野英岐部会長 ありがとうございます。分析自体はこちらで今後立てればよいのであって、それがちゃんと区分けできるように問題が設計されていけばよい。同じ世帯ですのと、御兄弟とか結構いらっしゃるのではないかなという話が前もありましたね。そうすると、例えば一緒に暮らしている人がいて、兄弟だけだったらそういうところに戻せると

いう分析の都合はこちらでまた考えますけれども、一応この設問はこれで。山田先生いかがですか、よろしいですか。ティー先生は。

○和川特任准教授 基本的な見直しといたしますか、細かい表現のテクニカルなところなのですけれども、ひとり暮らしであり、または単身赴任である、アンケートを選択肢とすれば、ひとり暮らしである（単身赴任を含む）と書いた方がよろしいかなと思います。下の祖父母のところも（配偶者の何とかを含む）みたいな形にした方が、設計としてはよろしいかと思います。

○吉野英岐部会長 ひとり暮らしで単身赴任以外のひとり暮らしはあるのでしょうか、あまりないですよ。

○和川特任准教授 ひとり暮らしはある。

○吉野英岐部会長 いや、単身赴任もひとり暮らしには入る、集合としてはね。単身赴任以外でひとり暮らしというのは、単にひとり暮らし。

○和川特任准教授 お一人の方もいらっしゃると思います。

○吉野英岐部会長 家族いるのだけれども、ちょっと事情があって自分だけ離れに住んでいるとか、そういうのは何と言うのだと言われたら、ひとり暮らしでいいですと。

○和川特任准教授 はい。

○吉野英岐部会長 ちょっと事情あって1人でアパートに住まざるを得なくなってしまうと、ないとは思いますが、世の中にはあるかもしれないから。そういうのは単身赴任とは呼ばないけれども、ひとり暮らしで、家族は別に住んでいるとか。赴任ではないのだけれどもなど。でも、そこは読む人は分かりますね。

1人なのか、一緒なのかというこの選択肢ですよ。それから、ある一定の空間で寮、宿舎、下宿者、老人ホーム当の空間、施設に住んでいるという3つでいいかと。なおかつおっしゃったのは、ひとり暮らしの中に単身赴任が含まれるのだから、またはという別のカテゴリーではなくて、集合的には中に含むというような表現でいかがかと。よろしいですかね。大丈夫でしょうか。

まだ修正ききますよ。

○吉野英岐部会長 そのほか何か今思いついたというのは。こういう住まい方はどこにつくのだというのがもしあれば。大勢で住んでいる、グループホームかなんかは3ですかね、グループホームというのはありますよね。

あれは、寮でもないし、寄宿舍でもないということで、施設ではあるということですかね。3ですかね。仮にその他でつけられても3に持ってきていいということですか。

○池田政策企画課主任主査 そうですね。

○吉野英岐部会長 ここにグループホームの例示がないから、私はこの3つではないと思ってその他につけて、括弧グループホームと書いたという人、もしいらっしゃれば、それは3だよねと。4というのは、本当に上の3つには全く当てはまらない。1か月の前半は1人で住んでいて、1か月の後半は家族に住んでいると、そういう事情があってそういう人がいるとかという場合はその他と。

○池田政策企画課主任主査 そうですね、現状から考えるとこれだけの区分になれば、なかなか対象はないのかなと。

○吉野英岐部会長 よっぽどその1も2も含むみたいな人が出てくれば、その他で落としていくということですね。ほとんど1と2と3でカバー率が大丈夫だろうと。

では、この方式でよろしいですかね、ありがとうございます。

では、調査統計課さんのほうと協議進めて最終的には直していく形ということですね。

そのほかありましたっけ。上昇した、下降した、2区分、現行通り。いいでしょうか。

それから、ポジティブ、ネガティブ、これどっちでも使えるようにこうつくっておいて、スペースをなるべく省略してくどい書き方をしないためにという最初の頃の考え方、これももちろん現行どおりやりたいということですね。

これは、ポジティブ、ネガティブというのは、補足調査。

○池田政策企画課主任主査 はい、そうです。補足調査です。

○吉野英岐部会長 例えば②は5,000人調査の方、アンド補足調査。

○池田政策企画課主任主査 そうですね、すみません。

○吉野英岐部会長 ③、④は補足調査。

○池田政策企画課主任主査 そうです。

○吉野英岐部会長 ということですよ。だから、どちらの調査をどう直すのかとふっと思いましたが、今の話でいいのですよね。

○池田政策企画課主任主査 すみません。御指摘のとおりです。

○吉野英岐部会長 ③と④は補足調査の修正点、②は補足調査アンド全体調査の修正点、①は両方にかかるというか、共通してこの時期だと。ありがとうございます。

では、御了承いただければこの方式で次回は進めていきたいと思えます。

そのほかにはその他ありますか。

○池田政策企画課主任主査 特にございません。

○吉野英岐部会長 では、委員の方からその他ないですか。特になし。

では、あとは閉会ですので、評価課長さんお願いします。

3 閉 会

○北島政策企画課評価課長 長時間にわたり御議論いただきまして、ありがとうございます。
す。

次回の部会ですけれども、10月28日2時半から予定しています。よろしくお願ひいたします。

以上をもちまして本日の部会を終了いたします。ありがとうございました。